

<伝え方>

■満足度を高めるポイント

❖追分の人形芝居の実演は、矢立の杉に近接して設置されている屋外の特設会場で演じられた。今回上演いただいた「本朝廿四孝」は、笹子峠と縁の深い武田勝頼が登場する演目であり、演目と場所の関係性や矢立の杉の目の前で見られるというダイナミックさ・非日常性が、参加者に大きな驚きと感激を創出した。また、実演の前後には、ツアー参加者が人形を持って自分で実演し、人形の重さ、人形扱いの難しさを実感した。解説の中に出てくる事物に実際に触れて、大きさ・重さ・温度感を直に感じることは、より印象深く、記憶に残るものとなった。【A1】



甲州街道：追分の人形芝居と矢立の杉

❖勝沼宿では、古くは旅籠、現在は果樹園を営む地域住民宅で、ブドウ（甲州種）を試食した。また、石和宿では、ガイドが自分の畑で採れたブドウ（山梨県外にはあまり出回っていない品種）を振舞った。体験の中でも、その場限りの試食や試飲が強く印象に残るようだ。【A2】

❖勝沼宿では参加者の目に入った石碑について、偶然その場に居合わせた所有者から話をきくことができた。また、棒道でも同様に、たまたま逸見神社の補修をしていた石工に作業の様子を見せてもらうことができた。このように地元の人が案内することによって、地域住民との出会いがしらの会話が誘発されることがあり、サプライズ体験として参加者は楽しんだ。また、勝沼宿では勝沼地域でのみ使用されていた通貨や古銭に、韮崎宿では普段触れることができない土偶のレプリカに触れ、触感で歴史を楽しむことができた。【A2】



甲州街道：勝沼宿でのみ使用されていた通貨や古銭に触れる

❖秩父往還では、少人数かつ歴史の道や文化財に対する関心度が高い参加者が集まったことで、解説者から参加者への一方通行のコミュニケーションではなく、参加者から解説者に対する活発な質問や発話が生まれ、双方向のコミュニケーションを通じた知識や魅力の伝達ができたと。【C】



秩父往還：解説者と参加者の双方応コミュニケーション

■気を付けるべきポイント

❖参加者全員に声が届きにくい場面があった。せっかくの解説なので、参加者全員に届くように伝えたい。全員が集まっていることを確認してから話し始める、「私の周りに集まってください」と適宜声を掛ける、一番遠くにいる人に聞こえるボリュームで話す、必要に応じてA3サイズ程度に拡大した写真やマイクなどの小道具も活用するなどの工夫である。また、参加者に背を向けて話してしまうと声が届かないので、立ち位置も注意。【共通】

❖原稿や資料を読み上げる解説が続くと、参加者は退屈してしまう。必要なことは覚えておき、自分の言葉で伝えることが重要。【共通】

❖解説時に、周囲に騒音があるケース（大型車の通行、落ち葉清掃など）や、往来が多い場所では、解説が聞きづ

らいことがあった。周囲が静かに落ち着くのを待つか、適宜、場所を移動して、参加者が安心して解説を聞けるように工夫することが必要。【共通】

<解説に活用する道具や資料類>

■満足度を高めるポイント

❖既存資料の中でも、甲府柳町宿の周辺の往時の町割りが描かれた地図（平成甲府城下町絵図）が分かりやすいと好評であった。往時と現在の変化を歩きながら確認することができた。【A2】

❖道を歩きながらの解説では、声が聞こえるようなマイクロフォンの工夫が重要だった。韮崎宿でのガイドは、ヘッドセットにベルト型の大きなスピーカーをつけており、聞きやすさ、ガイドの装備品としての演出効果もあわせて好評だった。【A2】

■気を付けるべきポイント

❖ツアーの最初に地元行政等が作成した多くの資料を配っていただきありがたく感じたが、逆にどの資料を利用するのが分からず混乱した。一方、こうした資料類をいれてもちあるくエコバックやクリアファイルも配布され、非常に使い勝手がよく、貴重な土産品になった。【A2】

❖秩父往還では、A3版の詳細な資料を配布したところ、「配布資料のサイズが大きいと持ち歩いて参照する際不便。本のように綴じられている資料の方がツアーに適している。」との声が挙がった。【C】

❖これまで何度も石仏を見るツアーに参加して、事前の知識は豊富な方だと思うが、棒道ツアーではガイドの情報や資料がなければ道の歴史やストーリーを感じることは難しかったらう。【D】

❖みのぶ道では、道全体の行程や全体像を示す地図を用意したが、スケジュールの都合上、説明が不十分だったため、メッセージが伝わるのに時間がかかった。資料等を活用して、序盤で全体像を説明し、問いかけをすることは大変重要であることを改めて認識した。【E】

❖旅行前に資料を配布してもらえるとあらかじめ目を通すことができ、理解が深まった。移動中は解説を聞くのが精一杯で、詳細な資料を読むのは難しい。一方、情報量が多い資料は参加者が帰宅後に理解を深めるのに役立った。【共通】

❖参加者のレベルに応じて、資料に掲載する人名や地名、建築の構造名称等、用語の漢字にルビを振った方が分かりやすい。また、ツアーで訪れた場所や通ったルートが分かる詳細な地図を配布することで、再来訪にもつながる。【共通】

❖資料の情報量について、長い文章はその場で読むことが難しく、箇条書きやイラスト等で簡潔にまとめられている方が現場での活用に向いている。【共通】



甲州街道：平成甲府城下町絵図を使用した解説



甲州街道：ヘッドセットとベルト型スピーカー



甲州街道：配布されたエコバッグやファイル（資料同封）